

試行・検証等のテーマ

「奥大山自然文化協議会」の設立と運営（体制整備）

背景 ・ 課題

- ・「奥大山エリア」において自然体験活動を提供している主体が、相互に情報交換する仕組みが不十分
- ・地域を訪問するユーザーに、地域の一体感やエリア全体の印象を創造できるような情報発信が不足している

事業の ねらい

- ・官民が連携し国の機関等の支援を受けたコンソーシアム（協議会）を設立運営し持続可能な体制の実効性を検証
- ・各会員が有する体験活動に関する情報発信と利用者ニーズの事前把握やフィードバックを蓄積する体制を整備

事業内容

【奥大山自然文化協議会／令和5年6月22日設立】

会長：江府町長 白石祐治（江府町は事務局を担当）

民間：サントリーホールディングス株式会社、株式会社山陰合同銀行、
特定非営利活動法人エコパートナーとっとり、
一般財団法人休暇村協会休暇村奥大山、奥大山ガイドクルー（任意団体）

行政：環境省中国四国地方環境事務所大山隠岐国立公園管理事務所、
鳥取県生活環境部、鳥取県教育委員会事務局

大学：国立大学法人鳥取大学

<活動計画の概要>

- ・会員相互の情報交換を活発に行い「顔の見える関係」を構築する
- ・協議会活動や提供する体験活動に関する情報発信を行うサイトを開設する
- ・効率的かつ効果的に自然体験サービスの利用者からのフィードバックを蓄積する仕組みを作り、情報を蓄積、整理して利用者ニーズの把握や事後の効果検証等を通じ、提供サービスの品質管理を継続する



成果

- ・「奥大山自然文化協議会」を設立し、体験活動の総量の確保のために、会員が各々のリソースを持ち寄って提供メニューの多様性を確保しつつ、各々の体験活動の魅力を共同で訴求した
- ・江府町奥大山の”エバーランド奥大山”（江府町の直営施設）を本事業の拠点施設として位置付けて運営した
- ・拠点施設の果たす役割を、イ）体験プログラムの提供、関連事業の実施、展開の場としての機能、ロ）体験活動プログラムの作成を検討する団体への支援を行う機能、と設定した

今後の 展開

- ・参画団体の幅が広く、また、体験活動に対する意欲や熟度に相違が存在したことから、会員相互の日常的な情報交換や意見交換を充実させることが難しかった
- ・情報発信やフィードバックの活用を目的としたシステムの構築に時間を要したため、具体的・実践的な検証を行うための期間が確保できなかった
- ・今後は、会員間の交流を促進し情報発信の内容を質量ともに充実させ、集まったユーザーからのフィードバックを基にプログラムの改善を重ね「奥大山エリア」の認知度の向上と利用者の増加を図る

試行・検証等のテーマ

「奥大山自然文化協議会」の設立と運営（情報発信）

背景 ・ 課題

- ・ 子供達のリアルな体験活動が不足する中、体験活動に関心の薄い人々を対象に有用性を伝える機会が必要となっている
- ・ 「奥大山エリア」では、多様なプログラムが提供されているが、集約されていない

事業の ねらい

- ・ 奥大山エリアにおいて、森、川、海がつながる水循環を起点とした自然体験プログラムを実施するためのフォーラムを開催する
- ・ 提供プログラムを紹介するパンフレットを作成する

事業内容

【フォーラムの開催】

自然体験の有用性を伝えるフォーラムを開催し、江府町における歴史文化気候風土を共通認識し、雄大な風景地の保護と適正利用を図り、多くの方に水循環を起点とした自然体験活動の有用性を伝える

<フォーラムの内容>

- 日時：令和6年2月18日（日）午後1時30分開演 午後3時30分終了
- 場所：江府学園日野川校舎（旧江府中学校） 多目的ホール
- 参加者：約50名（含、報道機関1社）

【事業の実施概要(事業パンフレット)の作成】

奥大山自然文化協議会の体制及び拠点施設の運営の状況を一つの例として横展開を図るため事業パンフレットを作成、配布して本事業の内容を広く周知する

<掲載内容>

- 参画団体の提供する自然体験活動の概要
- 奥大山自然文化協議会の活動内容



成果

- ・ 水の循環フォーラムにおいて、非常に質の高い議論が交わされた結果、協議会の活動と併せて「自然体験活動の有用性」を広く伝えることができた
- ・ パンフレットは写真、デザインともに優れており、非常に魅力的な内容となっている

今後の 展開

- ・ SNSやWebなどで情報を得て参加する人が殆どだったことから、情報発信の経路や手段についての充実を検討する必要があると思われる
- ・ フォーラムの参加者の満足度は高く、加えて実体験を伴うフォーラムや講演会への要望が多く寄せられたため、「体験型の講演会」といった新たな企画構成についての可能性を感じた

試行・検証等のテーマ

ニーズ調査及びプログラム作成支援コーディネーターの配置

背景 ・ 課題

・奥大山の恵まれた自然環境の中で、自然体験活動や文化社会活動などの豊かな感性を育む活動や体験の機会を提供するに当たり、それに関する豊富な知識と経験を有する人材がエリア内で活動する多様な主体を結びつける活動が不足していた

事業の ねらい

・自然体験、農業体験、歴史文化体験の目的を理解し、知識と経験を蓄積したコーディネーターを配置することで、奥大山エリアにおける多様な活動や体験の機会を有機的に結び付け、幅広い世代の人々に提供する体制を整える

事業内容

<実施体制>

- ・コーディネーター 1名配置
- ・体験活動プログラムの提供を実施する団体や民間団、体学校等のプログラム利用者を訪問し、情報収集を行った
- ・体験プログラム及び関連事業のフィールドとしての観点から現況を調査した

<活動内容>

実施期間：令和5年8月18日～令和6年3月1日まで

活動範囲：奥大山エリアを中心とした鳥取県西部及び島根県東部一円

（1）コーディネート業務

- ・体験活動プログラムの提供を実施（検討）する団体への情報提供及び支援
- ・民間団体や学校等の利用者からのフィードバックやニーズを蓄積、整理

（2）活動の評価・提案業務

- ・体験プログラムの提供、関連事業の実施、展開の場としての原状の評価
- ・体験活動の有効性の評価と、今後の持続可能な活動に対する提案



成果

- ・協議会参画団体からの情報収集やその結果を踏まえた事業計画の提案に加えて、自然体験プログラムの学校説明に同行してニーズを把握するといった、従来行うことができなかった活動を積み重ねることができた
- ・コーディネーターの人材を探し歩く過程において、周辺地域において自然体験活動に強い意欲を持つ人々との人脈を築くことができ、最適な人材に巡り合うことができた
- ・コーディネーターが、自ら自然体験活動のプログラムを造成、提供する構想を取りまとめて支援者を募り、具体化するに至った

今後の 展開

- ・事務局を役場が兼ねていたことから、コーディネーターの持つ知識や熱意に追いつくことが難しく、事務的な対応に偏りがちであったため、収集された情報や提案を効果的に評価することができなかった
- ・この点を踏まえて、エリアを熟知し、意欲や熱量のレベルの揃った現場を熟知する複数のメンバーで構成する「事業推進チーム」のような「議論と意見交換」の場の必要性を感じた

試行・検証等のテーマ

独自の取組（社会文化事業、クラウドファンディング）

背景 ・ 課題

- ・コロナ禍を通じて人々の生活様式が変化し、自然に包まれ自然の中で時を過ごすことが、レクリエーションや気分転換から、「健康な心と体で幸せに生きたい」という人間の根源的な欲求を満たす「価値ある時間」として評価され始めたが、これらを満たすコンテンツが十分でない
- ・これら、先例のない取り組みに対する公的な財源措置が十分でなく、事業実施の足かせとなっている

事業の ねらい

- ・「自然環境の下での様々な文化、社会活動」を実施・展開することが、地域やプログラムを選択する際にどの程度の訴求効果やインセンティブとしての有効性を有するかについての検証を行う
- ・関連事業に対する「ガバメント・クラウドファンディング」を実施し、地域拠点を支える人材や財源の確保方策の一つとしての可能性を探る

事業内容

【文化社会事業の試行】

- ・事業主体の独自事業として、「自然環境の下での様々な文化、社会活動」を実施し、地域やプログラムを選択する際のインセンティブとしての有効性を検証

＜実施概要＞ ヴァイオリニスト Ayasa が奏でるソロコンサートin奥大山鏡ヶ成
開催日：令和5年10月29日(日) 14:00開演
会場：休暇村奥大山鏡ヶ成キャンプ場「ミズナラ」エリア
参加者：約100名 ※荒天のため屋内で開催

【財源調達手法の試行】

- ・江府町を寄付の受け皿として、協議会が行う事業フィールドの環境整備に対する支援を寄付対象とした「ガバメントクラウドファンディング」を試行実施した

＜実施概要＞ 木谷沢周辺の環境整備
目標額：10,000,000円（達成）
支援対象：木谷沢溪流の環境整備（自然体験プログラムの実施フィールド）
事業主体：江府町（奥大山自然文化協議会協議会事務局）



成果

【文化社会事業の試行】

- ・独自に行った「紅葉に包まれたバイオリンコンサート」は好評で、今後の「自然環境の下での様々な文化、社会活動」の展開に期待する声が多く寄せられた

【財源調達手法の試行】

- ・独自に行った「ガバメント・クラウドファンディング」は、目標額を超える資金調達を実現した

今後の 展開

【社会文化活動の試行】

- ・自然環境下における社会文化活動に対して一定の評価や期待が寄せられたことは心強かったが、今回の講演は試行実施であったことから参加費の徴収を見送っており、今後の事業展開に当たって事業費の財源確保が課題である

【財源調達手法の試行】

- ・今回は成功を収めたものの、寄付者の共感を得ることのできる事業内容（寄付対象）の選定が非常に難しいことが予見されるため、財源としての安定性に欠けるという弱点がある